様式第１６（第４０条関係）（第一面から第三面まで）

|  |
| --- |
| 認定申請書  申請年月日　 　2025　　年　7　月　14　日    　　経済産業大臣　殿  （ふりがな）きゅーぴーかぶしきがいしゃ  一般事業主の氏名又は名称　キユーピー株式会社  （ふりがな）たかみや　みつる  （法人の場合）代表者の氏名 　髙宮 満  住所　〒150-0002  東京都渋谷区渋谷１丁目４番１３号  法人番号　6011001006277  　情報処理の促進に関する法律第３１条に基づき、情報処理の促進に関する法律施行規則第４１条（①第１号、②第２号）に掲げる基準による認定を受けたいので、下記のとおり申請します。 |
| 記  情報処理システムの運用及び管理に関する指針に関する取組の実施状況  　(1) 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | ①2025-2028 中期経営計画  ②キユーピーグル―プ統合報告書 2025 | | 公表日 | ①2024年11月26日  ②2025年4月30日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 公表方法：当社ホームページに掲載  ①2025-2028年度 中期経営計画：https://www.kewpie.com/ir/pdf/presentation/2024/ir\_FY2025-2028\_chukikeieikeikaku.pdf  p5：キユーピーグループのめざす姿と2030ビジョン  p6：2030年までの経営の基本的な考え方  ②キユーピーグループ統合報告書2025：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir\_kewpie-report2025\_spread.pdf  p2：キユーピーグループの理念  p6：長期的な価値創造に向けて  p12：価値創造プロセス  p19：中期経営戦略 | | 記載内容抜粋 | 【キユーピーグループの理念】（②:p2）  社是「楽業偕悦」は、「高い志を持つ仲間と共に、仕事を楽しみ、困難や苦しみを乗り越えながら成果を成し遂げ、その悦びを分かち合う」という意味です。また、社訓は「常に道義を重んじ、”何が本当か、何が正しいか”を判断の基準とし、創意工夫に努め、親をはじめお世話になった方々に対する感謝の気持ちと謙虚さを忘れずに努力していれば長い目で見ると世の中というものは存外公平である」という創始者の教えを継承しています。  めざす姿には、私たちがどのような存在として、世の中に貢献していきたいかという意思や想いを示しています。  【2030ビジョン】（①:p5、②:p6）  「キユーピー2030ビジョン」には「サラダのリーディングカンパニー」「一人ひとりの食のパートナー」「子どもの笑顔のサポーター」を掲げ、「サラダ・ウェルネス・サステナビリティ」の価値創造の3つのドメインを軸に、社会価値と経済価値を創出し、世界のお客様に貢献する姿を描いています。  【2030年までの経営の基本的な考え方】（①:p6、②:p19）  IT・デジタルを積極的な未来投資の対象とします。  未来につながる投資を拡大し、経営の質的転換を図ることによって、新中期経営計画のテーマを実現します。  【価値創造プロセス】（②:p12）  当社グループは理念のもと、国内外でさまざまな食シーンに合わせた商品提案・情報提供を行い、バリューチェーンを構築してきました。  外部環境の変化に対し、取り組むべきテーマを明確にしながらビジネスモデルを磨き上げ、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって世界の食と健康に貢献することをめざします。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策や戦略は取締役会、経営会議にて議論および決裁されており、それらの内容をもとに有価証券報告書や統合報告書、企業サイト等で社外への情報開示を行っています。 |   (2) 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | ①2025-2028 中期経営計画  ②キユーピーグル―プ統合報告書 2025  ③コーポレート・ガバナンスポリシー  ④有価証券報告書  ⑤日本食糧新聞  ⑥ニュースリリース  ⑥-1 「ロボット実装モデル構築推進タスクフォース」に参画  ⑥-2 令和2年度 革新的ロボット研究開発等基盤構築事業 ロボットフレンドリーな環境構築支援事業に採択  ⑦キユーピー公式note「kewpie standard」 | | 公表日 | ①2024年11月26日  ②2025年4月30日  ③2025年2月28日  ④2025年2月28日  ⑤2025年1月15日  ⑥-1 2019年11月12日  ⑥-2 2020年9月30日  ⑦2024年10月11日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 公表方法：当社ホームページ等に掲載  ①2025-2028年度 中期経営計画：https://www.kewpie.com/ir/pdf/presentation/2024/ir\_FY2025-2028\_chukikeieikeikaku.pdf  p18：国内事業の構造改革  p15：2025-2028年度　中期経営計画　投資方針  ②キユーピーグループ統合報告書2025：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir\_kewpie-report2025\_spread.pdf  p5：国内事業の構造改革とグローバル展開の加速  p6：未来に向けて成長投資を進める  p25：国内事業の構造改革  p28：スマートファクトリー構想  p43：新基幹システムの活用による業務の効率化  p42-45：DXで未来を創造する  ③コーポレート・ガバナンスポリシー ：  https://www.kewpie.com/company/pdf/kewpie\_Corporate\_Governance\_Policy250228.pdf  p9：重要会議・委員会  ④有価証券報告書：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/annual\_report/2025/ir\_20250228\_112\_yuho.pdf  p54-55：コーポレート・ガバナンスの状況等  p61：(5)当社およびその子会社の取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制  ⑤日本食糧新聞  https://news.nissyoku.co.jp/news/yokotah20250112072245534  2025年１月15日の記事「キユーピー、関連会社を大再編　工場統廃合など強力に」  ⑥ニュースリリース  1.「ロボット実装モデル構築推進タスクフォース」に参画  　https://www.kewpie.com/newsrelease/2019/1557/  2.令和2年度 革新的ロボット研究開発等基盤構築事業 ロボットフレンドリーな環境構築支援事業に採択  　https://www.kewpie.com/newsrelease/2020/1902/  ⑦キユーピー公式note「kewpie standard」  現場の働きやすさが、お客様の満足につながる。「スマートファクトリー構想」が叶える未来＿kewpie standard : FILE 08  https://note.kewpie.co.jp/n/n4416c374bf02 | | 記載内容抜粋 | 【国内事業の構造改革】（①:p18、②p5、p25）  国内事業の構造改革に取り組んでいます。  商品開発の仕組みを刷新し、付加価値の高い商品へシフトし、IT・デジタルやロボットの技術を積極的に活用しながら、バリューチェーン最適化とポートフォリオ変革を進めています。  これらの施策により、人口減少や市場成熟化といった課題に直面する国内市場において、新たな価値創造と持続的な成長の実現をめざします。  【基幹システム「SAP」導入によるDX推進の加速】（②:p43）  当社グループは、2024年度に基幹システムの刷新を完了しました。  これにより、生産・営業・会計・物流の各業務をシンプル化・標準化し、グループ全体でデータを一元管理する環境が整い、各部門でデータを可視化できるDX推進の基盤が確立されました。  【DXで未来を創造する】（②:p42-45）  バリューチェーン全体でIT・デジタル化を進め、中長期的な価値を生み出せるビジネスモデルを再構築する「価値創造プロセスの進化」に取り組んでいます。  ヒトの想像力を「データ×ＡＩ」で強化し、バリューチェーンとサプライチェーンを最適化することが当社グループのＤＸの姿です。  マーケティング部門  AIペルソナと壁打ちすることでアイデアをどんどんブラッシュアップできないか、市場動向の分析や消費者の嗜好に合わせた提案などもAIを活用して効率的にできないかなど、デジタルを活用したプロセスや検証手法の高質化に取り組んでいます。  営業部門  過去の営業データや顧客情報を分析し、最適な提案内容や訪問タイミングを提示できるような、AIを活用した営業支援ツールの開発を進めています。  生産部門  多様な粒度で情報が取得できるようになりました。  ライン単位での詳細な原価分析が可能になり、データ（事実）に基づいた迅速な改善活動を展開しています。  デジタル推進本部  部門間の連携をさらに強化するため、バリューチェーン全体でめざす姿を考えながら「最高の顧客体験創出」「商品構成最適化」といった全社横断型のDXプロジェクトを推進しています。  【投資方針】（①:p15、②:p6）  経営効率化と成長領域への投資を加速し、資本効率の向上を重視します。  攻めの投資として成長・付加価値、自動化・拠点最適、DX・新規開発・サステナビリティに750億円の投資を行います。  未来への投資として2030年以降を見据え、200億円を人材育成、ブランド強化、IT・デジタルなどへ投下します。  【スマートファクトリー構想】（②:p28、⑦）  サプライチェーン全体の効率化を図ることで従業員が活き活きと働き続けられる職場をつくること、それによって生産性が向上し、よりよい商品、よりよいサービスを持続的にお客様へ届ける仕組みをつくることを目指し、「スマートファクトリー構想」を打ち出しました。  スマートファクトリー構想の施策の一つである「最適化・自働化」が進むことによって、現場で働く従業員の単純作業や、負荷の大きな作業が減り、個々のスキルアップの時間が増えることを期待しています。一般的に、ロボットの導入における作業の自働化を「省人化」と言いますが、私たちは人を省くのではなく、従業員が活躍する機会を増やすことで人を活かす、「活人化」を目指しています。  従業員の「活人化」を図ることで、お客様によりよいサービスを提供する、「人を活かし、人に届ける」好循環を生み出せるよう構想を推進しています。  【人手不足解消を目指したロボット化】（⑥）  経済産業省と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が2019年10月9日に立ち上げた「ロボット実装モデル構築推進タスクフォース」に参画し、人手不足が懸念される食品分野におけるモデル創出に貢献し、実用化に向けた取り組みに着手す。  2020年に一般社団法人 日本機械工業連合会（以下JMF）が公募する、「令和2年度 革新的ロボット研究開発等基盤構築事業※1」に採択されました。この事業の目的は、ロボット導入が進まない「施設管理分野」「小売分野」「食品分野」における、ロボットフレンドリーな環境を構築することにあり、キユーピーはこのうち「食品分野」において、惣菜の盛り付け作業のロボット化をパートナー企業と共に、低価格で実現することを目指して参画します。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策や戦略は取締役会、経営会議にて議論および決裁されており、それらの内容をもとに有価証券報告者や統合報告書、企業サイト等で社外への情報開示を行っています。 |   　　① 戦略を効果的に進めるための体制の提示   |  |  | | --- | --- | | 戦略における記載箇所・ページ | ②キユーピーグループ統合報告書2025：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir\_kewpie-report2025\_spread.pdf  p39：DX人材の育成とデジタルリテラシー向上  p47：コーポレート・ガバナンス  p61：会社情報  ③コーポレート・ガバナンスポリシー ：  https://www.kewpie.com/company/pdf/kewpie\_Corporate\_Governance\_Policy250228.pdf  p9：重要会議・委員会  ④有価証券報告書：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/annual\_report/2025/ir\_20250228\_112\_yuho.pdf  p54-55：コーポレート・ガバナンスの状況等  p61：(5)当社およびその子会社の取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制  ⑤日本食糧新聞  https://news.nissyoku.co.jp/news/yokotah20250112072245534  2025年１月15日の記事「キユーピー、関連会社を大再編　工場統廃合など強力に」 | | 記載内容抜粋 | 【コーポレート・ガバナンス】（②:p47、③:p9）  グループの全体方針および最重要事項は、当社の取締役会または経営会議(または中計推進会議)での審議を経て、決定します。  リスクマネジメント、サステナビリティ、コンプライアンス、グループガバナンス、ＤＸなどグループ横断の重要かつ専門的な課題については、経営会議から権限を委譲された特定の重要会議・委員会が方針の策定・取り組みの推進を担うことで、迅速かつ適切な決裁と実行につなげます。  【DX推進委員会（重要会議）の役割】（④:p55、p61）  重要委員会であるDX推進委員会は、グループ全体のデジタル戦略方針の策定、資源投入（コスト・体制など）の適正化、DX人材育成の方針の策定・推進を役割とします。  グループ全体の情報セキュリティの維持、IT環境の整備、ITリテラシー教育およびIT活用の推進も行っています。  【当社およびその子会社の取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制】（④:p61）  当社グループは、グループの持続的な成長を実現するため、デジタルトランスフォーメーション（DX）を重要な経営課題と位置づけ、デジタル技術を活用して事業モデルと業務プロセスの変革を進める。  当社グループのDXに向けた取り組みは、DX推進委員会の統括のもと当社グループ内の各社・各組織が推進するものとし、DX推進委員会は当社グループのデジタル戦略・資源投入の方向付け、重点目標の設定と支援、推進体制の整備、デジタルリテラシー教育の推進を担う。  【人材育成】（②:p39）  ビジネス変革のありたい姿からバックキャストで戦略をデザインし、デジタルツールを活用できる人材を育成するためにDX人材育成のグランドデザインを選定し、各種DXプロジェクトを確実に遂行していきます。  デジタル推進本部、トウ・ソリューションズ、人事本部と各部署が連携し、学習機会の充実に取り組みます。  【株式会社トウ・ソリューションズの連結対象化】（②:p61、⑤）  システム会社のトウ・ソリューションズを連結化し、グループ全体でDXを強力に推進します。 |   　　② 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策の提示   |  |  | | --- | --- | | 戦略における記載箇所・ページ | ②キユーピーグループ統合報告書2025：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir\_kewpie-report2025\_spread.pdf  p42-45：DXで未来を創造する  p44：デジタルを武器に、変革志向の企業風土へ | | 記載内容抜粋 | 【キユーピーグループ版生成AIのローンチ】（②:p44）  2024年6月にキユーピーグループ版生成AI「Q–unity」をローンチしました。  使用可能な環境にいるグループ社員約8千名のうち、半数以上がまずは使ってみた、という状態です。  【基幹システム「SAP」導入によるDX推進の加速】（②:p43）  当社グループは、2024年度に基幹システムの刷新を完了しました。  これにより、生産・営業・会計・物流の各業務をシンプル化・標準化し、グループ全体でデータを一元管理する環境が整い、各部門でデータを可視化できるDX推進の基盤が確立されました。  【DX推進の土台の構築】（②:p44）  データを蓄積する分析基盤や分析・可視化するBIツール、生成AIなど道具立てをすすめ、各部門のDX推進の土台を構築しました。 |   (3) 戦略の達成状況に係る指標の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | ①2025-2028 中期経営計画  ②キユーピーグル―プ統合報告書 2025 | | 公表日 | ① 2024年11月26日  ② 2025年4月30日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 公表方法：当社ホームページに掲載  公表場所  ①2025-2028年度 中期経営計画：https://www.kewpie.com/ir/pdf/presentation/2024/ir\_FY2025-2028\_chukikeieikeikaku.pdf  p8-15：第2章　2025-2028年度 中期経営計画の全体像  ②キユーピーグループ統合報告書2025：  <https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir_kewpie-report2025_spread.pdf>  p19：中期経営戦略  p44：新基幹システムの活用による業務の効率化  p42-45：DXで未来を創造する  p39：DX人材の育成とデジタルリテラシー向上 | | 記載内容抜粋 | 【企業価値創造に係る指標】（①:p13、②:p19）  ROE（自己資本利益率）：  　2028年度までに8.5%以上を目指す  国内事業利益率：  　8.0%以上を目指す  海外売上CAGR（年平均成長率）：  　2桁%以上を目指す  営業利益・ROICなどの総合指標：  　売上高 6,000億円、営業利益 450億円、ROIC 8.5%以上  【DX戦略実施により生じた効果を評価する指標】  基幹システム（SAP）導入による業務効率化：（②:p43）  　生産・営業・会計・物流の各業務のシンプル化と標準化  　データを活用した意思決定により、業務の進め方・速さ・精度が向上  マーケティング領域：（②:p42）  　AIペルソナ活用によるアイデア創出と嗜好提案の高度化  営業領域：（②:p43）  　AIによる訪問最適化・提案支援の導入  生産領域：（②:p43）  　ライン単位の詳細な原価分析とデータに基づいた迅速な改善活動の実施  【DX戦略に定められた計画の進捗を評価する指標】  生成AI「Q–unity」の導入進捗：（②:p44）  　使用可能な環境にいるグループ社員約8千名のうち半数以上がすでに利用  SAP刷新の完了状況：（②:p43）  　2024年度に完了。DX推進の基盤として各部門でのデータの一元管理、可視化が可能に  分析・可視化ツール（BIツール）の配備状況：（②:p44）  　部門横断でのデータ活用を可能にする道具立てを整備  DX人材育成とデジタルリテラシー教育の推進体制：（②:p39）  　従業員のデジタルリテラシーを向上させ、生成AIなどのIT、デジタルツールの積極的な活用を促進。  　デジタル推進本部、トウ・ソリューションズ、人事本部と各部署が連携し、学習機会の充実に取り組む |   (4) 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信   |  |  | | --- | --- | | 発信日 | 1. 2025年1月9日   ②③ 2025年4月30日 | | 発信方法 | ①期末決算説明会(アナリスト・機関投資家向け)にて企業価値向上に向けた取り組みについて説明  資料及び動画をホームページにて公開  https://www.kewpie.com/ir/event/presentation/  ②キユーピーグループ統合報告書2025：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir\_kewpie-report2025\_spread.pdf  p5：未来に向けて成長投資を進める  ③キユーピーグループ統合報告書2025：  https://www.kewpie.com/ir/pdf/kewpie-report/ir\_kewpie-report2025\_spread.pdf  p42-45：対談 DXで未来を創造する | | 発信内容 | ①代表取締役執行役員から2025年1月9日に実施された期末決算説明会にて、2024年度の業績及び2025年度の計画について説明しています。  ②キユーピーグループ統合報告書2025のトップメッセージにおいて、当社代表取締役社長執行役員が以下の内容で発信しています。  「未来への投資として2030年以降を見据え、200億円を人材育成、ブランド強化、IT・デジタルなどへ投下します。」  ③キユーピーグループ統合報告書2025の対談において、当社代表取締役社長執行役員が以下の内容で発信しています。  「DXは当社グループの持続的な成長と社会への貢献のためには不可欠です。DXの重要性を認識し、全社を挙げてその推進に取り組んでいます。DXで価値創造のプロセスが進化し、企業体質も変革し、新たに生まれた資源を使って次なる挑戦ができるようにしていきたい」  「ヒトの想像力を「データ×AI」で強化し、バリューチェーンとサプライチェーンを最適化する。これこそが当社グループのDXの姿です。」 |   　(5) 実務執行総括責任者が主導的な役割を果たすことによる、事業者が利用する情報処理システムにおける課題の把握   |  |  | | --- | --- | | 実施時期 | 2025年　4月頃　～　継続実施中 | | 実施内容 | 「DX推進指標」自己診断フォーマットを活用して課題を把握しています。IPAの自己診断結果入力サイトに登録済みです。 |   　(6) サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施   |  |  | | --- | --- | | 実施時期 | 2020年　12月頃　～　継続実施中 | | 実施内容 | ホームページにて公開、2021年度より有価証券報告書に記載  https://www.kewpie.com/ir/management/risk/  https://www.kewpie.com/ir/pdf/annual\_report/2025/ir\_20250228\_112\_yuho.pdf  当社グループでは、サイバー攻撃を受けた場合の備えとして「防御システムの多層化」を実施し、迷惑メールや不正アクセスを防ぐ対策に加えて、24時間監視し不審なプログラムの挙動を判定し実行防止するEDRシステムなどによる対策を行っています。  並行して従業員の「リテラシー向上」に向けた対策として、攻撃メールへの対応模擬訓練、情報セキュリティ教育など定期的に実施し、さらに従業員の情報セキュリティ意識を高く保てるよう情報推進委員会が適宜情報を発信しています。 |   （注）(1)～(3)の取組において公表先のURLを提出しない場合は次の①の書類を、(4)の取組において情報発信内容を確認できるウェブサイトのURLを提出しない場合は、次の②の書類を添付すること。また、必要に応じて③、④の書類を添付できる。  ①　(1)～(3)の取組における、公表を行っていることを明らかにする書類（公表先のウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ②　(4)の取組における、情報発信を行っていることを明らかにする書類（情報発信内容を確認できるウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ③　(1)の取組における企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性、(2) の取組における戦略を補足説明するための書類（最新の情報処理技術の変化による影響を踏まえた観点から決定していることを説明する書類等）  ④　(5)～(6)の取組における、実施内容を補足説明するための書類 |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１６（第４０条関係）（第四面及び第五面）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 情報処理の促進に関する法律施行規則第４１条第２号に掲げる基準による認定を受けようとする場合は、以下についても記載すること。  　(1) データ連携システムの運用及び管理に関する説明   |  |  | | --- | --- | | データ連携システムの目的、概要に関する説明 |  | | データ連携システムの運用及び管理を開始した日 | 年　　月　　日 | | ガイドラインその他の機構が定める文書等の名称 |  | | 開発、運用及び管理を共同で行うことが合理的であることの説明 |  | | データ連携システムにおいてデータ流通機能及び連携サービス機能を有することの説明 |  |   (2) 利用者に対するデータの管理に関する事項の開示   |  |  | | --- | --- | | 文書等の名称 |  | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(3) データ連携システムの安全性及び信頼性の確保のために必要な措置の継続的な実施   |  |  | | --- | --- | | 文書等の名称 |  | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(4) データ連携システムに接続する情報処理システムの安全性及び信頼性を確保されていることを確認するために必要な措置の継続的な実施   |  |  | | --- | --- | | 文書等の名称 |  | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(5) 他のデータ連携システムとの相互の連携を確保するためにデータ連携システムが準拠する基準の公表   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 |  | | 準拠する基準に対してデータ連携システムで機能を整備していることの説明 |  |   　(6) データ連携システムに係る事業の実施に必要な経営の安定性及び経営資源の確保   |  |  | | --- | --- | | 経営の安定性の確保に関する説明 |  | | 経営資源の確保に関する説明 |  |   （注）(1)～(6)の取組においては、必要に応じて実施内容を補足説明するための書類を添付するものとする。 |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１６（第４０条関係）（第六面）

（記載要領）

１．「申請年月日」欄は、経済産業大臣に認定申請書を提出する年月日を記載すること。

２．「住所」欄は、一般事業主が法人の場合にあっては、主たる事務所の所在地を記載すること。

３．一般事業主が法人の場合であって法人番号が記入されている場合は、一般事業主の氏名又は名称、代表者の氏名、住所の記載を省略することができる。

４．申請を行う類型について、該当するものの番号を○で囲むこと。

５．申請内容は正しく記載すること。認定後、虚偽または不正の申請を行ったことが判明した場合には、認定の取消し等所要の措置を講ずることがある。